

環七地下河川計画検討委員会（第２回） 議事要旨

日時：令和８年７月１４日（水）

主な意見は以下のとおり。

- 気候変動を考慮した目標設定の「降雨量 1.1 倍」は、将来予測の平均値であり、決して安全側の値とは言えないことを念頭におくことが重要である。
- 施設規模等の検討で対象とする降雨については、各流域の計画降雨（中央集中型降雨波形）だけでなく、実績降雨やアンサンブル降雨、線状降水帯等の多様な降雨パターンも踏まえるとよい。また、降雨継続時間についても地下河川の流域の特性を踏まえて検討するとよい。
- 台風や集中豪雨等の降雨イベントが短期間に複数回発生することも考えられる。計画諸元については、地下河川に取水した洪水が残っていたとしても、次の洪水を流せることが地下河川の強みであることを考慮して検討するとよい。
- 地下河川内における土砂堆積の程度については、設計・維持管理上の考え方を整理しておくとうい。
- 放流口の堰については、維持管理性を考慮しつつ可動堰などの選択肢も検討するとよい。
- 地下河川内に滞留した洪水について、既存の環状七号線地下調節池において貯留された水質の変化を調査し、放流水の水質影響を確認するとよい。
- 事業効果の可視化、環境・防災教育への活用を検討するとよい。

以上